

新型コロナウイルス感染症対応に係る専修学校における遠隔授業の取組事例

大阪情報専門学校／大阪

【科目】 JavaScript (プログラミング)

【授業期間】 4月24日～6月18日 (15回)

【対象】 大学併修学科 他：158名

【環境】 学校側：PC(カメラ,マイク内蔵)、
dual display、書画カメラ

学生側：PC^{*1)}、タブレット端末、スマホ

Microsoft Teams (遠隔プラットフォーム)^{*2)}

Microsoft Forms (コミュニケーションプラットフォーム)^{*2)}

paiza.IO (オンライン実習ツール) ※遠隔授業での利用申請済

*1) 希望者にはノートPC貸出し *2) 在学生全員にアカウント付与

【授業】

- ・ 講義時間(Teamsから事前通知)に学生はログインし、オンライン授業に参加する。
- ・ 授業時間は講義60分、実習30分を目安とする。
- ・ 講義時間は、JavaScriptのプログラムの流れや、教科書に関する記述内容などを、講師端末や書画カメラを共有しながら解説する。
- ・ 双方向授業を中心にモチベーションを維持するため、授業中は常時、チャット機能を利用した発問や学生からの質問・意見の収集に努める。



【授業】 (続き)

- ・ 実習時間は、個別の実習環境^{*3)}でプログラミングを試行しながら動作確認を行う。
- *3) paiza.IOは、インターネット上の実行環境を利用するため、個人環境に影響されず全員が同じ結果を得ることができる。
- ・ 授業アンケート(Forms)と課題提出で振り返りと出席確認を行う。
- ・ 授業は同時録画され、後日受講や復習用としてTeams環境下でオンデマンド配信する。